

※実務経験のある教員による授業科目

### 授業概要

講師のピアノ演奏や学校の音楽教師の経験、教科書教材の作編曲、読譜指導等の多様な実務経験を生かして、音楽に関する基礎知識や理論、歌唱法、伴奏法をクラス授業（45分）で学修するとともに、経験の異なる学生に対応したピアノの個人レッスン（45分）を受けることを併せて行います。クラス授業では技能の学び方をはじめとして、主に音楽に関する知識と、リズム、音階、和音など基礎的な音楽表現の技能を身に付け、個人レッスンでは主にピアノに親しみながら楽曲へのアプローチの仕方と音楽表現の仕方を学びます。これらを通して、保育者・小学校全科教員に求められる基礎的な音楽の知識・技能を身に付けます。

### 授業計画

第 1 回	(クラス授業) ガイダンス、技能の学び方、教育の現場に対応する音楽能力の伸ばし方 (個人レッスン) 個々の学生の経験に対応した練習教材の決定
第 2 回	(クラス授業) 音部記号・音符・休符・拍とリズムの基礎 (個人レッスン) 練習教材の配布
第 3 回	(クラス授業) ピアノの鍵盤の配置と音名 (個人レッスン) 各進度に応じたレッスン
第 4 回	(クラス授業) 長音階・#・b・q・オクターブ (個人レッスン) 同上
第 5 回	(クラス授業) 大譜表・調・五線譜と鍵盤の関係 (個人レッスン) 同上
第 6 回	(クラス授業) 全音・半音 (個人レッスン) 同上
第 7 回	(クラス授業) 移動ド・階名 (個人レッスン) 同上
第 8 回	(クラス授業) ハンドサイン (個人レッスン) 同上
第 9 回	中間実技試験
第 10 回	(クラス授業) 旋律の階名唱・ハンドサイン・演奏・指使い (個人レッスン) 同上
第 11 回	(クラス授業) 旋律とは (音階・音程) (個人レッスン) 同上
第 12 回	(クラス授業) 「うみ」の旋律と単音伴奏 (個人レッスン) 同上
第 13 回	(クラス授業) 「うみ」の旋律と和音伴奏 (個人レッスン) 同上
第 14 回	(クラス授業) 「うみ」の特徴 (フレーズ・リズム・拍子など) (個人レッスン) 同上
第 15 回	(クラス授業) 基礎技能試験「うみ」 (個人レッスン) 同上
第 16 回	期末実技試験

### 到達目標

①楽典の基礎的な事柄を理解し説明することができる。②拍やリズム打ちの表現、読み書きができる。③長音階の表現（ピアノ演奏、音名唱、階名唱、ハンドサイン）ができる。④長調の簡単な旋律の単音伴奏ができる。⑤旋律と和音との結びつきを理解し和音伴奏を付けて演奏することができる。⑥暗譜で小学校教材または保育教材の弾き歌いができる。⑦自らの興味に応じて選曲したピアノ曲を暗譜で演奏することができる。

### 履修上の注意

- (1) 「クラス授業」と「個人レッスン」の両方に出席して「出席」となる。
- (2) 指先を使うことから常に爪を切っておくこと。
- (3) 手指消毒を行ってから鍵盤に触れるようにし、使った楽器、備品等は必ず元の状態に戻すこと。
- (4) 欠席・遅刻・早退や相談は、必ずメールで、クラス授業担当とレッスン担当に同報すること。
- (5) 学校や保育の現場で求められる音楽実技として、必ず身に付けてほしい内容である。

### 予習・復習

- (1) 音楽に触れている時間の長さや技能の定着とは比例します。練習時間を確保する意志の強さが必要です。
- (2) 音楽は耳からの記憶がスタートです。まず YouTube などで聴き曲をよく知ってから練習してください。
- (3) スポーツや語学と同じように、教わったことはすぐに反芻（はんすう）して再現することが効果的です。
- (4) 練習せずにレッスンを受けても無駄です。少なくとも1日あたり30分は練習することが望ましい。

### 評価方法

練習状況および授業態度（20%）、実技試験（50%）、基礎技能（15%）、ハンドサイン（10%）、学習記録（5%）を総合して評価します。

### テキスト

#### 合同授業用

- ・教科書名：『改訂 ポケットいっぱいのおうた』
- ・著者名：
- ・出版社名：教育芸術社
- ・出版年（ISBN）：9784877884857
- 他にプリント配布。

#### 個人レッスン用

『おとなのためのピアノ教本』I～V巻（ドレミ楽譜）  
使用する巻は進度に応じる。授業内で販売。